

ここが聞きたい!!

# 一般質問

4議員が村政を問いました

## 東日本大震災支援と再生可能エネルギー

### 防災対策



山本敬介議員

#### 1 東日本大震災支援と再生可能エネルギー

**問** 先ほど黙祷を行いました。東日本大震災から明日で3年です。死者行方不明合わせて1万8520人の方が亡くなられました。震災関連死も2916人です。わずか3年の経過で国民一人ひとりが決して忘れてはなりません。村としてどのような支援活動があるか伺います。

**中村村長** 村では、一時避難

支援、子ども支援など、可能な支援は行っています。また、ボランティアによる被災者受入れ支援も行っています。また平成26年も被災者支援の予算を計上しています。

**問** 森林と大地に根付いた一次産業が主産業の北海道では泊原発の再稼働は避けるべきと考えています。占冠村の林業、農業、観光にも放射能は脅威です。村長の考えを伺います。

**中村村長** 私も安全性が確保されるまでは拙速に再稼働すべきではないと考えます。東日本大震災以降、エネルギーの自給率向上を図ることは地方自治体としての責務と考えています。

湯の沢温泉の木質バイオマスボイラーを柱に財政措置をしながら、自然エネルギー導入に向けた取組みを行っていきます。

**問** 村内で薪ボイラーや薪ストーブ、太陽光発電の設置を進めるための補助制度について伺います。

**中村村長** 補助制度は今後検討していきたいと考えています。

#### 2 防災対策

**問** 長らく、懸案になっていた中央地区の「歩く避難路」2路線について具体的に伺います。

**中村村長** 平成24年度に避難路の測量設計を終了しましたが、平成24年11月土砂災害警戒区域指定を受け、予算計上を延期しています。特別警戒区域の指定解除後に、避難路の設置工事を行う予定で、平成27年度予算への計上を考えています。

**問** つづいて、防災無線、つまり災害時の連絡網もしくは情報伝達について伺います。この議論を始めて早3年が経過をしようとしています。30年に一度の異常気象が頻繁に起きている状

況で、いつ大きな水害がおこるとも限りません。

大雨による災害時に、現在の広報車での情報伝達では聞き取れません。進捗について伺います。

**中村村長** ニセコ町を視察しましたが、FMラジオ放送での周知は手段として有効ですが、運営や費用負担を考慮すると難しいと考えています。防災無線の必要性は痛切に感じています。費用対効果を考えると、福祉や保健、コミュニケーションといった要素も加味すべく、現在資料や情報を収集しています。

占冠消防支署、行政區長、教育委員会、社会福祉協議会といった関わりある団体等で委員会を組織して、意見集約を進めていく考えです。

**問** 情報伝達について、これから検討して設置するまでに数年かかるというのであれば、行政区を使うなど、なんらかの方法を補完した上で検討していくことが大切だと思います。今年行われる防災訓練で試すことができるとは思いますが、伺います。

**中村村長** 総合計画でも、平成30年度までに、地域・行政な



災害時に使われる広報車

ど関係機関の連携した防災体制の確立を目指しており、すぐに設備投資ができないのであれば、地域で助け合う仕組みを早い時点で作っていかねければならないと考えています。避難訓練の細部はこれから検討していきますが、そのような情報伝達の方法も考えていきたいと思

# トマム地区商業振興 学力テストの学校別公表



五十嵐正雄議員

## 1 トマム地区商業振興

**問** トマム地区で現在休止しているガソリンスタンドが2月いっぱいまで廃業するという話があります。また、上トマム唯一の小売店が4月いっぱいまで営業をやめるといふ話があります。

地区住民の生活の安心・安全の確保、今後村が進める移住・定住対策に重大な支障が出ることとなります。早急な取り組みが必要と思いますが村の取り組みを伺います。

### 中村村長

ガソリンスタンドにつきましては、約1年前から休止の状況で、過日、所有者から監督官庁へ廃止届を提出すると伺っています。小売店につきましても4月いっぱいまで店舗での販売は行わないで、リゾート内の店舗からの注文を納品する

と伺っています。

この間、村では村内外の企業数社と協議を進めてまいりましたが、いまだ課題解決には至っていない状況です。なるべく早い時期に新たな方向性を決定して対策を講じたいと考えています。

トマム地区の皆さんには大変ご不便をかけていますが、とりわけ食料品については、今後高齢者が困らないよう村として対応していきます。

**問** 今後の取り組みは、4月中旬に方向性が出てくるという理解でいいか伺います。

### 中村村長

村の方向性はなるべく早い時期に出したいと思っております。新たな事業誘致は非常に厳しい状況に変わりません。いちばん困るのが高齢者の方々だと思しますので、そこへの対応は誠心誠意、村として努力していきます。

## 2 ごみ処理の現状と今後の計画について

**問** 現在の埋立て地での処理能力は何年までか伺います。

### 中村村長

平成5年度に供用開始した最終処分場は、現在第1工区はほぼ埋立て完了し、第2工区への埋立てを開始していきます。現在の埋立て量の推移でいきますと、平成34年度まであと9年です。それまでは処理可能と予測していますが、施設の更なる延命化に向けて取り組んでいきます。

**問** 現在地での処理が出来なくなった時、新たな場所と同じように埋立てにより処理をしていくのか伺います。

### 中村村長

埋立て後、どのような形でごみ処理を行っていくか決定していません。隣接地の用地や構造などの調査、検討を進めていきます。他の施設は広域で行っているため、焼却も含めて総合的な判断が必要と考えます。

炉によるごみ処理をして、そこから出る新たな熱源をハウス栽培等に利用していく方法も一つかと思えますが村長の考えを伺います。

### 中村村長

富良野生活圏一般廃棄物広域分担処理検討協議会で協議しておりますが、焼却炉の新設は計画されていません。村としては、現施設の使用可能期間は現行により、ごみ処理を進めて行きますので、焼却炉の建設予定、熱源利用の計画は持っておりません。

3R（リデュース・リユース・リサイクル）運動を推進して循環型社会の構築に努めるとの広域圏の方針です。村もそれに沿って現在考えています。

## 3 学力テストの学校別公表

### 問

昨年12月15日付けの新聞で、全道179市町村教育委員会を対象に行った全国学力テストに関するアンケート結果が報道されました。市町村教育委員会の判断で「学校別結果を公表できる」ことについて、68%の

122市町村教育委員会が反対、20%の36市町村が賛成と報道されました。占冠村教育委員会は賛成と報道され、多くの村

民は驚いています。この報道の真意を教育長に伺います。

### 藤本教育長

賛成の市町村というところで占冠村の名前が載っており、大変驚きました。アンケートの質問用紙の中で賛成・反対というようなところはなく、なぜいきなり占冠が賛成だったのか困惑しました。

学校現場で混乱が起きないように校長会、教育委員会の中で公表はしないということで確認をしてきました。今後とも教育委員会としては、学校ごとの点数を公表することは考えていません。

**問** 学校関係者以外の地域住民に対して教育長の学力テストの学校別公表をしないという考えをどのように知らせるのか伺います。

### 藤本教育長

学校と地域のつながりということで、コミュニティスクールというものをやっていくので、これらを活用しながら学校として、また教育委員会として考え方を知らせていきます。

# 赤岩トンネル内の氷結対応は 避難路の明確化を



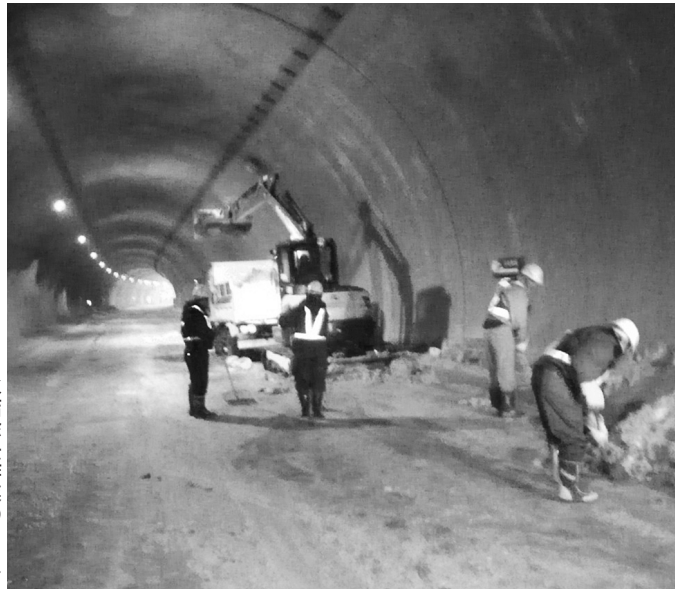
佐野一紀議員

## 1 赤岩トンネル内の

### 氷結対応は

**問** トンネル内に氷結し段差が出来ている危険箇所が4箇所あります。赤岩トンネルは高速道、日勝峠等の通行止め等による迂回路として、重要な路線であり、往來が激しくなり大変危険です。安全対策について管理者である旭川建設管理部富良野出張所に要望されたのかお聞きします。

**中村村長** 特段の要望等は行っていないませんが、富良野出張所におきましては現状と今後の対策について情報の提供はいたされています。通行の危険箇所は認識され極力路面に水が入らないよう清掃と薬剤散布により対処している状況です。  
しかし清掃、薬剤散布による対処方法は根本的な解決になら



氷結除去作業の様子

いていた、あく努力が必要と考えるが伺います。  
**中村村長** 私も状況を見てきました。排水溝だと思えますが、トンネルの側面から水が噴

き出ている状況で毎日凍っていくのであれば非常に危険だと承知しています。  
今後国道、道道に関して、このような危険箇所等あれば安全管理、危険管理に対して、関係機関、部署に要望していきたいと考えています。

## 2 避難路の明確化を

**問** 避難路の早期対策と明確化ですが、所管事務調査で、災害時の避難道として予定されているが、村道東1線の改修また同路線につながる2号線を急勾配や幅員が狭いので検討されたい旨の報告書が出されています。

災害修復工事により警戒区域の解除、および区域設定の変更等が行われれば、同路線を避難路として位置付ける考えがあるか伺います。

**中村村長** 村道2号線、千歳地区から運動公園の道路は一部通行環境の改善を図ってきましたが防災上の避難路として位置付けていないのが現状です。  
要因は旭川建設管理部富良野出張所と協議を行っていますが当該地の地形、地質の問題から道路改良に至る結論が出ていません。

**問** 土砂災害警戒区域解除後、明確な避難路として、駐在所から小峰地先を経て中学校に循環するこの路線でよろしいか再度伺います。

**中村村長** 村道2号線は地滑り地帯でもあり、増水時川の横を通って避難するのが良いのか、村道宮下線が避難路に適切でないかと考えており、河川の水位、アメダスの気象情報をリアルタイムで収集し、避難勧告、避難命令など、事前に対策

を取っていきます。そのような考えから当然避難路としては宮下線であり、これからも進めていく考えです。

**問** 高速道路開通に伴う小河川の変化等による水没、冠水地域を調査し住民が安心できる防災計画、ハザードマップを更新する予定はあるのか伺います。

**中村村長** 現在のハザードマップは旭川建設管理部が調査作成した鶴川浸水想定区域、並びに本村の過去における浸水状況を勘案し策定しており、ハザードマップに氾濫による浸水域の想定や堤防決壊による浸水の際の避難経路、避難方法、避難箇所を明示しています。  
内水による影響まで把握するには、小河川の線形変更だけでなく影響範囲の排水管の構造、道路状況、地質、高低差などが必要となり、洪水ハザードマップを見直す必要性は感じています。

各種データ整理に費用がかかるため現段階で取り組めない状況です。

# 移住・定住対策

## 公共施設の防暑対策



小峰義雄議員

### 1 移住・定住対策

**問** 移住・定住を決める条件は、一般的に働くところがあり、住む家があり、医療福祉や教育が充実していて子育てしやすいところと言われていますが、その中で子育て支援と住宅対策について伺います。子育てですが保育料、学校給食、高校の現状と今後について伺います。

**中村村長** 保育料は富良野沿線の半額以下、学校給食費は低所得者の配慮措置がされています。高校生は無利子の奨学金と通学の助成を行っています。受益者負担原則を基本に現状の形で負担をお願いしていきたくと考えています。

**問** 保育料と学校給食については理解いたします。高校生助成

について富良野圏域外に行っている人にも助成を考慮すべきと思っております。

**中村村長** 私が教育長のときはそういう議論もありました。村から富良野沿線の高校に通っている方は村の消費人口にもなっており助成しようと、村外に出ている高校生は無利子の奨学金を活用していただく、いまはそのような状況で進めていますが関係者の声も聞きたいと思っています。

**問** 高校生の人数ですが富良野圏域に通っている人が14人、圏域外が10人で富良野圏域内の交通費の助成が1人当たり約20万円位になっていると思います。圏域外の人にも何らかの助成を考慮すべきと思いますが。

**中村村長** 具体的にどのようなどが出来るか考える時期かなと思っております。村外の人に対し無利子のみの奨学金対応は再検討すべきかなと思います。

**問** 住宅は定住人口確保の重要

な課題です。マイホーム事業の成果や今後の見直し、民間賃貸住宅、公営住宅、村営住宅、職員住宅、消防職員の住宅も含め今後の取り組みについて伺います。

**中村村長** 村の定住を促進するために雇用と住宅がベースであり、総合的に地域の魅力を高めていく必要があると考えています。

マイホーム奨励事業は25年未で2件の実績で、条例制定の成果はあると考えていますが、本定例会に条例改正案を提案しており、26年度に5件の支援措置を予定しています。

民間賃貸住宅は平成26年に建設予定で、村営住宅、公営住宅は長寿命化計画に基づき修繕や用途廃止、建替えを進めます。職員及び消防職員住宅は、総体的に老朽化しており、必要に応じ修繕を行います。駅前「楓」は単身用で狭いとの声がありますが、償還が終わった時点で改築できるかどうか検討します。

**問** 近年地球温暖化の影響もあると思いますが、夏になると全

国各地で最高気温が更新され熱射病が発生する状況にあります。福祉施設は今年建設ですが、診療所、保育所等公共施設の防暑の認識と今後の対策について伺います。

**中村村長** 中央地区の医療施設以外には冷房を行っている施設はありません。これまで定期的に短期間との判断で、経費的な面もあり、対応していない状況にあります。

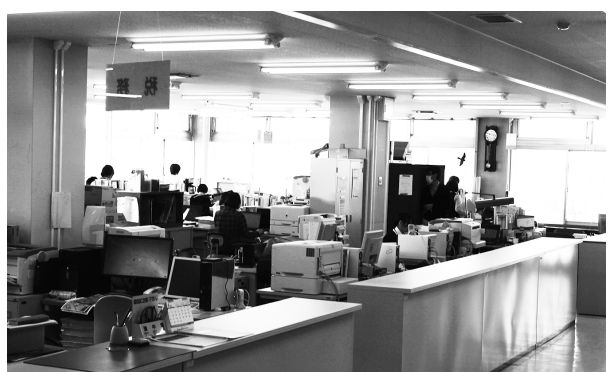
ただ近年指摘のように、温暖化の影響が暑い日が多く、高齢者などの脱水症状対応にも関心が高まっているため、全公共施設での対応は難しいと思います。必要性がある施設は、検討していきたいと考えています。

### 3 役場内の業務体制の改善

**問** 現状の事務所内は村民がくつろいで相談したり、所用を済ませる環境にはないと思いませんか。

富良野市や上富良野町の例を見ても職員対応カウンター前に椅子を常設しています。やはり高齢化になってきていますから、村民に対しての配慮は一層必要だと思います。庁舎内の全体的な利用方法は最善か、近隣公

共施設の利用も含め認識と考え方について伺います。



電子機器等並ぶ役場庁舎内

**中村村長** 村長部局を一つのフロアで集約して連携のとれる体制を整えたいとのことから現行の配置になっています。その後、事務電子化等機器の配置スペースも多く、また専門職員、地域おこし協力隊の配置を行ったことなど事務所スペースが狭くなっています。村民が利用しやすく改善することは大変重要と考えています。小規模多機能型居宅介護施設建設に伴いデイサービスセンターの後利用と合わせて検討したいと考えています。